

## 謹んでご冥福をお祈り申し上げます

美術協会会員・洋画部

### 故 宮崎 万平氏

2016年5月29日 逝去

宮崎先生と私との出会いは今から30年以上前に遡ります。飄々とした語り口で、しかし創作に対する熱い思いが溢れた言葉をかけて頂いたことを今でも思い出します。

先生は茨木美術協会の創成期から参画、地域文化の発展に尽力され、重要な役割を果たしてこられました。茨木市展では第8回展（昭和32年）から40回展（平成2年）まで審査員を勤められ、私的には「ミヤザキアトリエ」を創設、多くの市民に「絵を描くことの楽しさ」を醸成し地域文化の活性化に貢献、若手教育にも尽くされました。その中には、現在第一線で活躍されている作家や美術協会で中核を成す作家も数多く居られます。

一方、作家としての先生の足跡はまさに自由奔放であり、その概要を京都国立美術館コレクション・ギャラリーの作家紹介（平成25年）を引用して紹介します。



薔薇と北摂連山 茨木市クリエイティブセンターホール綴帳 1989 川島織物・綴錦

#### 宮崎万平作家略歴

小野竹喬に師事した京都市立美術専門学校（現在の京都市立芸術大学）日本画科在学中既に、洋画に転向する。日本画科を卒業後、京都二科、行動美術の研究所を経て、独立美術研究所で芸術院会員須田国太郎に師事し、芝田耕、米三兄弟のもとでデッサンの基本の指導を受ける。同時に公募展に出品を始め、1955年には京都市展市長賞を受賞する。

1950年代後半のこの時期に、最初期の写実から徐々に、スピード感のある大きなタッチへと変化をみせる。さらに1961年に須田国太郎が亡くなるのとほぼ時を同じくして、これまでの具象から抽象へとすすむ。当初は、激しい行為や素材の物質性を強調したいいわゆるアンフォルメル風抽象画であったものが、1960年代中頃からは、色線と色面を幾何学的に集中させたり発散させたり組み合わせることを特色とし、「冷たい抽象」とも言えるジオメトリック・アートに取り組むようになる。1965年に当館で開催した「現代美術の動向 絵画と彫塑」展への出品作も、単純化された幾何学的なパターンを用いた作品となっている。1966年にニューヨークへ渡り、約10年に及ぶ滞在の間にアメリカ、カナダ、スイス、フランス、ドイツのギャラリーで作品を発表する機会を得る。1975年に帰国後は、再び具象へと戻り、風景画及び静物画を数多く発表する。薔薇の連作等、テーマは日常的で身近なものへと移り、近年では幾何学的表現と具象的表現を合体させるなど、自身のこれまでの表現方法との融合と展開を試みている。

- 1923年 静岡市に生まれる。
- 1943年 小堀鞆音門下浅間神社絵師菊地甲冠に日本画の手ほどきを受ける。
- 1951年 京都市立美術専門学校（現：京都市立芸術大学）日本画科を卒業、独立美術研究所に入り須田国太郎に師事する。
- 1955年 京都市展市長賞受賞、第2回朝日新人展出品。
- 1956年 リアリズム美術家集団に参加。
- 1957年 京都市展市長賞受賞出品依頼待遇となる、第25回独立展（東京都美術館）出品、森有材賞受賞。
- 1962年 第5回新象作家協会展（東京都美術館）出品、新象作家協会賞受賞、新象作家協会会員となり、同会京都事務所を創設担当する。
- 1965年 「現代美術の動向 絵画と彫塑」展（国立近代美術館京都分館）出品。
- 1966年 ニュー・ジオメトリック・アート・グループに参加、渡米、ニューヨークへ移住。
- 1968年 アメリカ各地のギャラリーにて作品発表。
- 1970年 第3回国際パイオニアギャラリー展（ローザンヌ美術館、スイス/パリ現代美術館、フランス）
- 1971年 「日本の芸術家によるアメリカの思い出」展出品。
- 1972年 ドイツ各地のギャラリーにて作品発表。
- 1975年 帰国。
- 1977年 静岡市文化会館大ホール大綴帳制作。
- 1989年 茨木市クリエイティブセンター・ホール綴帳制作。
- 1998年 個展「画業50周年回顧展・近作展」（いばらき京都ホテル、大阪）開催。
- 2016年 逝去。



近年私達は、茨木美術協会洋画部を育ててこられた先輩作家を次々と失い、そして今回は宮崎先生をも見送ることになり、先人の残された業績に対し改めて敬意と感謝の念の想いを深く致しているところです。

先生の晩年は脳内出血で倒られ病魔との闘いだったと推察致しますが、お別れの日、ご長女様が「病に倒れ障害で手が思うように動かない、右手が動かないならば左手で描く、左手でしか描けない線が有るんだよ」と最後まで創作意欲は尽きることが無かったと紹介され、このように思う存分に作家人生を生き抜いた父を私達は誇りに思う。と涙ながらに語られています。まさに画業一筋に生きられた宮崎先生の生き様を端的に捉えた言葉であり、また私達後輩に対する最後のご指導だったようにも思えます。

平成28年5月29日 宮崎万平先生 89年の作家人生を終えて永眠。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

茨木美術協会 副会長 藤川耕太郎